

令和5年度第2回駒来塾運営委員会 議事要旨

《日 時》	令和6年2月26日(月) 午後2時～3時
《場 所》	小牧市役所 本庁舎4階 404会議室
《議 事》	(1) アンケート結果について (2) 次年度の各会場生徒数と新規塾生の募集について (3) 支援員・サポーターの募集について (4) その他 駒来塾見学会の開催について
《出席者》	委 員：舟橋 孝司、松浦 恵美、山本 幾男、安藤 智人、 梶田 光俊、光部 明美（6名） 事務局：川尻こども未来部長（議事より）、小川こども政策課 長、長谷川学校教育課指導主事、若林青少年育成係長、舟橋指導 員、武田指導員、荒川
《傍聴者》	なし
《会議経過》	以下のとおり

1 議事

(1) アンケート結果について

資料1に基づき説明。

【松浦委員】

先ほどの説明で、週2日にして欲しいという要望が非常にたくさん出ていますが、週2回行えないということが課題ですね。

支援員やサポーターの不足というところが大きな問題なのか、他に何か要因があるのかということと、支援員・サポーターの人員確保の方法について教えてください。

【事務局】

サポーターについてはホームページや広報等で周知をしています。

大学生の方が何名か従事していますが、就職等に伴って辞めていくので、たくさんの学生を確保できるシステムが形成されていないのが現状です。

支援員につきましては、基本的には先生のOBの方になりますので、学校を退職される方や再雇用を終えられる方にお声がけし、チラシを配布し、お願いをしておりますが、なかなか人手が集まらないのが現状です。

【委員長】

小牧地区については、生徒数が多いということもあって、ふらっとみなみを活用する方法と、会場は現状の4会場のままで、開催日を増やす方法があるということですが、これは具体的に可能なのか。

開催日を火・木の2回にしても、うまく運用できるのか、その辺を少し補足の説

明をお願いします。

【事務局】

もともとはふらっとみなみを駒来塾の会場にできたらというお話がありました。会場を4つから5つにすると、塾長1人の他、支援員・サポーターを3、4人配置し、5名程度を確保する必要があります。それは今の支援員・サポーターの中ではなかなか難しいというのが現状です。

しかしながら、小牧地区は生徒数が多いので、小牧だけ開催日を週2回にすれば、例えば、東部や味岡でお手伝いしてくださっている方の中で、1人でも2人でも来ていただければ、別の曜日に駒来塾が開催できるのではないかと考えています。

4月に募集をかけてみて、多かった場合に対応できたらと考えていますが、開催日を増やす方法が確実にできるかということはまだ確認できておりません。

今後の運用によって変わるかもしれませんが、このまま生徒数が増えた場合、開催日を増やす方向で始められたらという考えです。

【委員長】

会場を増やすのではなく、生徒数が増えた場合には回数を増やして実施するということでよろしいですか。

【山本委員】

塾長の立場としては、やはり要望があれば答えたいと思います。

ただ、人員の制限がありますので、まず火・木で試行的にやってみて、スタッフについては他の地区からも希望をとって、2、3人でも集まれば可能かなという気がします。味岡地区の方では、できるだけ対応したいという希望が強いです。

→4月募集で生徒数が多い場合、開催日を増やす方向で調整予定。

(2) 次年度の各会場生徒数と新規塾生の募集について

(3) 支援員・サポーターの募集について

資料2～4に基づき説明。

【光部委員】

駒来塾の参加者募集はホームページや広報等でも周知していきますか。

【事務局】

各中学校にチラシを配布をするので、ホームページ等でのお知らせはしない予定です。

【光部委員】

一番下に問い合わせ先、こども政策課と書いてあります。昨今は携帯電話からかける方が多いと思いますので、市外局番を載せていただくと、かけやすいのではないかなと思います。

【梶田委員】

資料2の数字について、令和6年4月の支援員・サポーターの予定人数と参考で書いてある令和5年12月時点の支援員・サポーターの人数体制はどういう意味ですか。

【事務局】

参考で書かせていただいているものは、12月時点の各地区の駒来塾開催日の人数体制で、左側に書いてある人数については、継続希望調査の結果、4月からも継続して従事いただける方の人数を記載しています。

【松浦委員】

地区によって、支援員・サポーターの数がかなり異なりますが、応募される方はその地区に応募されるのか、それとも一括して募集を行い、担当地区を事務局で割り振られるのでしょうか。

【事務局】

申込書に通いたい場所を書く欄がありますので、例えば桃花台にお住まいであれば、東部会場を希望ということで申し込んでいます。

【梶田委員】

資料3の生徒募集チラシの募集定員は各地区10名程度で、資料2の受入可能人数とかなり差があり、これはどう読めば良いのでしょうか。

【事務局】

募集定員については、去年は若干名という形で出させていただいておりますが、若干名は少ないのではないかとということで、今回、実際受入ができる人数は10名ではありませんが、10名程度として配布を考えています。

【梶田委員】

募集定員と受入人数の差はどこからきているのですか。

【事務局】

例えば、小牧地区では、定員20名の部屋が2つありますので、40名まで受け入れ

ることが可能というように各会場の定員に合わせて設定しています。

【委員長】

資料 2 の上の表の味岡地区に小牧の方が 1 名入っていますが、その理由は何でしょうか。

【山本委員】

申込時の本人の希望に基づき、対象中学校は異なりますが、味岡地区に通っているという状況です。

(4) その他

駒来塾見学会の開催について

8月に中学生を対象とした見学会を開催した。

また、2月29日、3月7日には小学6年生を対象とした見学会を開催予定。

希望者は見学会終了後に面接を行い、4月から入塾できるように手続きを進めていく。

【委員長】

見学会に参加した子で、希望があれば面接を行い、4月からスタートができるということですね。新1年生で見学会に参加していない子が最短で入るにはいつからになりますか。

【事務局】

5月30日からです。

【委員長】

見学会に来て申込となると、2か月分早く入塾ができるということですね。

【梶田委員】

小学生だとなかなか学習に対する意識が生まれないので、実際には、中学校の学習が進んだ段階で応募してくると思います。来年度もぜひ中学生対象の見学会をやっていたらありがたいと思います。しかも、1学期が終わったぐらいのところでやっていたら一番効率的かと思います。

8月に見学会をやって9月、10月ぐらいから入塾になるのかと思いますが、1学期が終わったぐらいに見学会をやっていたら、9月から入塾ができると、より入りやすいのではないかという気がします。

【事務局】

第1回目の募集を4月に行って、少しでも早く入塾ができるよう、今回は5月30日スタートということでスケジュールを組んでいます。

以前、追加募集をした方が良いのではないかという意見をいただきまして、現状としては夏休み前にチラシを配って、夏休みが終わって、9月1日頃を申込期限に設定し、追加募集を行っています。今年度は追加募集のチラシに、見学会の案内を掲載させていただきました。少し前倒しになってくるのかとは思いますが、そういった方がより良いという声があれば検討させていただきたいと考えております。

【山本委員】

私は味岡地区の担当で、ここでは副委員長を務めていますが、駒来塾に入塾する子は、小学校の段階で勉強に困っている子が多い印象があります。4月、5月テスト前の早い段階でケアしておけば、その子たちも自信を持って中学校に行けますので、塾の現場としてはやはり早めにケアしたいという気持ちが強いです。

【松浦委員】

ちょうど今の時期に見学会が行われるのが小学生対象で、中学生は8月というお話でしたが、中学生も新しい学年に上がるので、新しい年度になったら頑張ろうとか、もう少し学習に力入れようとか、そういった気持ちを持つ時期なのかなと思います。

そういうことを考えると、このタイミングで中学生も見学をさせてもらえると、前向きな気持ちの子が駒来塾に入ってみようかというようになってくるのかと思うので、可能であれば中学生もこの時期に、新年度に向けて見学会をさせていただけるといいのかなと思います。

【委員長】

少しでも早めの段階から対応できればというのが皆さんの意見だと思います。

今の今ではなかなか難しいかもしれませんが、検討していただければと思います。

【光部委員】

北里の方で学習支援をしておりますが、先日、公立高校の一般入試が終了しました。3年生は4人おりますが、段々と減って行って、先週は1人も来ませんでした。3年生用の席を設けていますが、そこががら空きだったので、できることならば、そこから来たいという子や、見学したいという方がいらっしゃれば、ぜひ来ていただきたいと思います。3年生は3月まで実際には席があるということなので、できれば来てくださいというふうにお願いはしたんですけども、やはりもう試験が終わって進路が決まったという安心感からか全然来ないので、今後の勉強が心配だよという子がもしあれば、受入れるような体制はありますので、よかったですら、そういう

ふうに声をかける機会があるといいかなと思います。

【事務局】

今上がったご意見はすぐには難しい部分もありますので、今後の検討事項とさせていただきますと思います。

中学生の見学会につきましては、追加募集のチラシの方に QR コードを添付し、配布をしています。4月に全中学生向けにチラシを配布し、7月に追加募集でまたチラシを配って、小学6年生の見学会についても、全小学校の6年生にチラシを配布しています。

情報の伝え方で、紙を配らずにやる方法があれば周知ができるとは思いますが、現状、このチラシを各学校にお願いして配布する方法を取っている以上、何回もチラシを配るのは難しいのかと事務局の方では考えています。

何か違った方法で周知ができるといいと話を伺って考えていました。

【委員長】

学校ではテトルを使い出していて、市内25校に紙でチラシを配布するよりかは、テトルで周知してもらえるのが事務的にも良いのかとは思ったりします。少しでも効率化が図れるものなら、取り入れていければと個人的には感じています。

【長谷川指導主事】

学校教育課としては、ICT推進室とも連携して、テトル配信を始めていますが、すべてをテトルにしてしまうと、保護者にとって、情報過多になってしまうということで、そこはある程度絞ってということをしています。

その中で、このチラシについてどうしていくかということはまたこども政策課とも相談して検討したいと思います。

【委員長】

学校教育との関連の中で調整をしていただきながら、より良い方向へ改善していただければなというふうに思います。

【梶田委員】

先ほど子どもたちの募集をチラシだけでと言われていましたが、ホームページや市のライン等々を活用しない理由について何かありますか。

【事務局】

駒来塾の趣旨というのが、家庭環境により、家で学習する環境がない・経済的な理由で学習塾に通えないということで、子どもだけの意思では入塾できないものになります。

保護者の方を交えて面接を実施し、収入面の聞き取りや他の学習塾との違いについて説明させていただき、経済的な事情など確認をするということがございます。

誰でも広く入れるというものではないという趣旨から、かねてからホームページや、SNS などでは流していないという状況になります。

【梶田委員】

チラシを配布するのであれば一緒なのかなと思うのですが。

先ほど、PR 方法の部分で、学校のテトルで一斉配信はどうかという話が出ましたが、一斉配信となると、それはまた別の問題があるなと思っていて、市の事業としてやっていることなので、堂々と胸張って配信できるのではないかという気がします。それができないのに、他のツールを使うのはおかしいのではないかと思います。

【事務局】

梶田委員のおっしゃられることにも一理あると思いますし、市としてもこういった事業をやっているということは別の形で対外的に公表しているものにはなりますので、そこの説明も苦しいところもございますので、今頂いた意見は、事務局の方で、来年度以降どういう形で駒来塾への入塾を希望する生徒を受入していくかというのも含めまして、検討させていただきたいと思います。

【山本委員】

最初の頃は家庭も裕福で、勉強も十分できる子が何人か来ていましたが、ここ数年は駒来塾の趣旨に沿った生徒が入塾しており、ようやく結果がでてきたなという気がしています。

【委員長】

周知方法につきましては、検討いただく形をとっていただければというように思います。

ただ、施設定員の問題とか、支援員のサポーターの人員不足の問題など、様々なことが総合的に絡んでくると思いますので、その辺も加味した上で、引き続きご検討いただければどんどんいい方向へと進んでいくと思います。

2 その他

令和6年度委員改選を予定。